

活躍する同窓生

同窓生には、スポーツ界、芸能界、実業界などで活躍している人がたくさんいます。今回はコロナ禍の中、医療分野で活躍する同窓生を紹介します。

「故郷勝田台で開業12年目です！」

うのクリニック 院長 宇野史洋（昭和55年3月普通科卒）

私は勝田台で育ち、勝田台小、勝田台南小（転入）、勝田台中を経て、八千代高校（以下本校）に入学しました。小中学校時代は喘息で休みがちで、主治医は大久保内科の大久保哲夫先生でした。本校入学後に自転車通学を始めたことで、心肺機能が改善しました。

病弱だった私が目指したのは、大久保先生のような医師です。大学病院医師よりも開業医に親近感と敬意を感じていました。3年次学級担任だった越牟田哲朗先生から自治医科大学受験を勧められました。総合診療医養成を目的として設立された大学で、学風に共感し志望校としました。一浪を経て、入学しました。

卒業後は県内各地の国保病院に勤務し、総合診療技術習得に励みました。大学指定の義務年限9年間に満了し、さらなる挑戦として外務省に転身。在モンゴル日本国大使館勤務で、視野が広がりました。

帰国後は大学に戻り、診療、研究、教育に従事しましたが、いつか故郷に戻ると決めていました。平成19年に大久保内科閉院の報を知り連絡すると、先生は私を覚えていてくださり、同跡地で開業する話がまとまりました。

開業後、各母校の学校医を目指し、勝田台小、村上小、阿蘇小、勝田台中、八千代松陰中に加えて、念願の本校学校医を平成26年から承っています。さらに、在校時に同級であった金子保敏校長先生の御高配で、令和2年から本校産業医を兼務しています。大変光栄なことです。生徒たちは皆輝く目ではきはきと挨拶してくれます。うれしく頼もしく感じます。検診などで本校を訪問するのが楽しみです。本校は文武両道の優秀な高校です。在校時、私は受験に気を取られ部活動をせず、空虚な3年間を過ごしました。部活動に燃える生徒を応援しています。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。生徒の皆さん、特に3年生は、修学旅行や学園祭、最後の部活動や大会さえ中止になり、つらい状況ですが、家族、先生、友人と助け合いながら感染症を克服する、そんなシナリオに期待します。この希有なる体験をプラスに転じ、後輩や子孫に伝えられれば、有意義な高校生活になると信じます。誰もが手洗いやマスク装着など、今できることを粛々と行えば、そう遠くない時期に必ず収束します。清潔観念が身につくなど、良い影響も期待できます。

私も自院の職員も発熱外来やPCR検査などを施行して、この厄介な感染症と毎日戦っています。本稿が上梓される頃にはコロナ禍が治まっていることを祈っています。



コロナ感染の防止のために防護具でPCR検査を施行



モンゴル ウランバートル近郊 テレルジにて

略歴

- 1980年 八千代高校卒業
- 1987年 自治医科大学卒業
- 1987年 国保松戸市立病院
- 1989年 鋸南町国民健康保険鋸南病院 内科
- 1991年 国保松戸市立病院 消化器内科
- 1993年 組合立東陽病院 内科
- 2000年 外務省（在モンゴル日本国大使館一等書記官兼医務官）
- 2002年 自治医科大学 地域医療学兼総合診療部
- 2003年 国保多古中央病院 内科
- 2006年 医療法人社団育誠会北総栄病院 内科
- 2008年 うのクリニック開業 現在に至る

